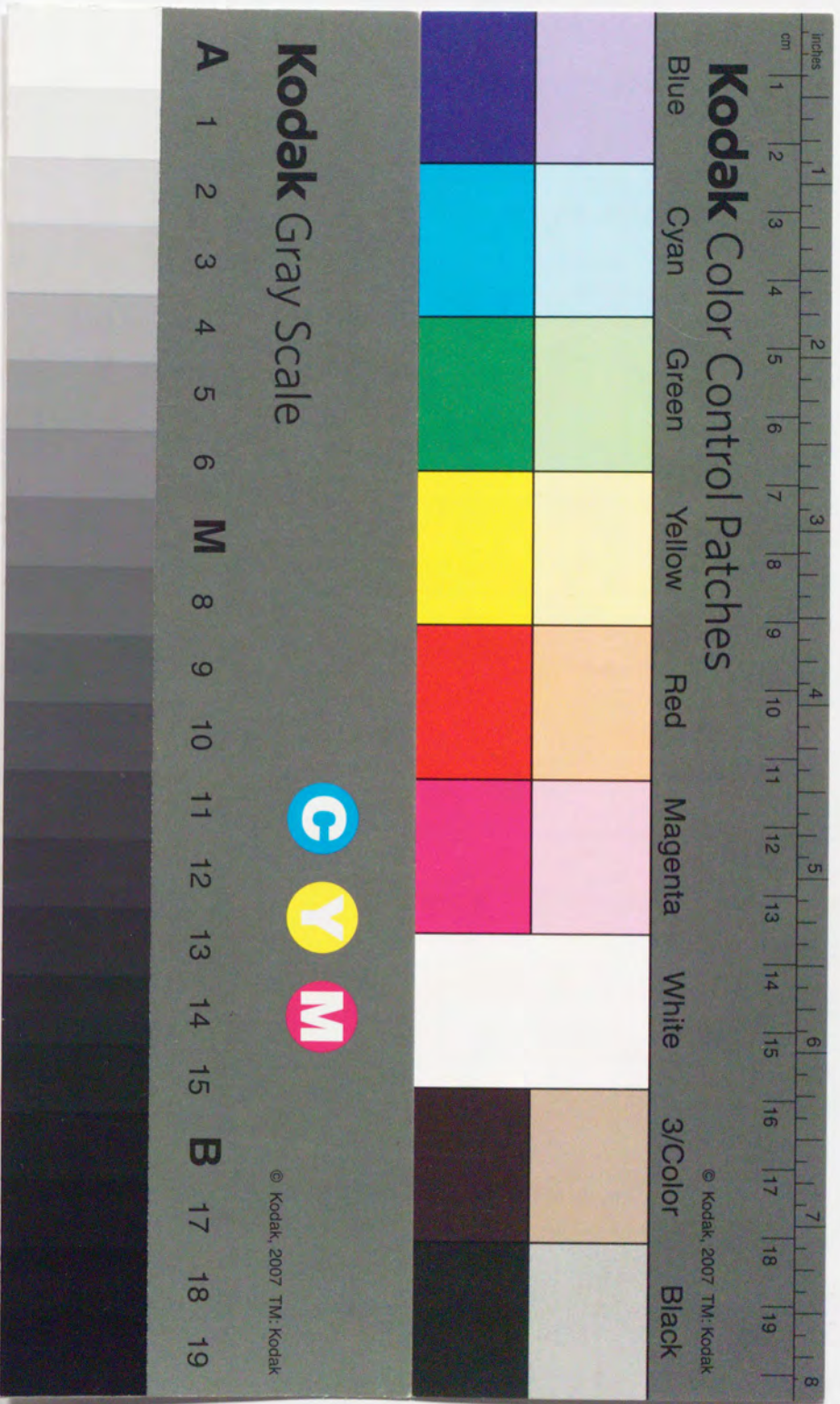
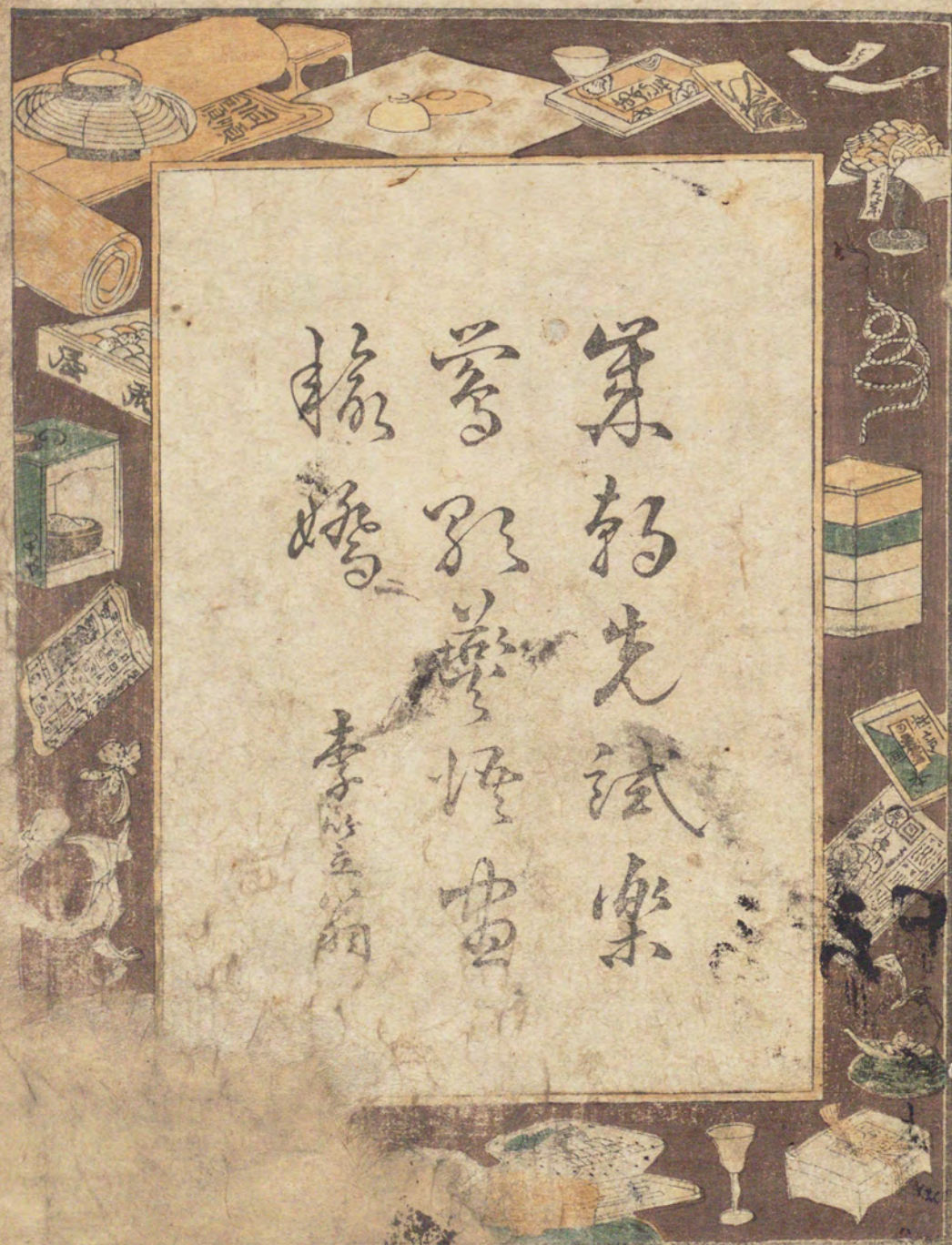






集朝先試樂
管歌聲
李心立前









常盤津 舟全殿
吾妻國太夫

山石井半四郎

沢村淀五郎

坂東善次

松本幸四郎

山科四郎十郎

堀の内日参時

中村助五郎

中村勝五郎









仇優三階興附録卷下

第三回

東都市隱 式亭三馬著

斯て臺所の都とて、仇二日路を経て又ツの島に至る。号て樂
則とて、由のありさあを見多ふ。臺所の秋國とて、其
濕地あり。一面は暗夜の如く、牧丈の岩窟、日月を覆ひ隠し、
益我の分ちなく、火とて用と辨し、拍子木と撃て、
相圖を多し。街道の入り見、附柱とて見附とて、
の程ニ三里も、けり宿入、は宿より、町とて、町の
町並、樂全の園とて、家後とて、常に音楽とて、
ある天人、何れとて、やとて、家め、戯とて、
遊、諸君とて、さぐれとて、やとて、の森とて、
面の洞宮、柱とて、立、松の木の、
め、石、蛇、龜の表向、斗り、て後、
（但り、見、り、バ、て、く、燈、臺、

持堂塔。又ハ宝藏金掘を、破て、ぐんびくと、
首尾とて、大音とて、上て、己、
か且那とて、大声とて、
あ、
湯、
近、
居、
近、
と、
害、
と、
殿、
こ、

ありとて近松大王と尊うやまつなりされども天王てんわう建たてのま
びやうあるまほしきなりなりとてそこの菴あんと多くてい
やあひ言ことひるさるなり彼大勢おほしきの若者わかしも市川
三升さんしょうとひ来り近松大王の別業べつぎふある志こころあり左の
もとふ鼻はなおろしてちと通とほトくはゆより一人の若黨わかし
菅蒲せうぶ皮かわの羽はとり松まつえさるがまきと大王のおはる両手紙りやうてつ
りまきと今南なん膽たん部ぶ州しゅう大日本花おほにっぽんの五ご妻さいふかれふさ六
代目市川三升さんしょうさるかゆで△こまゝとて近松翁おきな翁おきなかつかと三
三升さんしょうのかゆやまき衣服いふくと改かへ對面たいめんのさん皆みなの者た
どかおむひひやせふありとまりゆて△こまゝ君きみかまぐ
いらせらまきまふと下座げざのりやまきと奥おくへ入いと門
番かどわらひ大声おほこゑをとり上うへ三升さんしょう公こうのか入いりく和二ふたこ急いそひけけ
儒にうありて志こころくとうちとる三升さんしょうもまきなり之これ居ゐ乃

然と見てとり長と下の衣装付とて初対面のより
 婦と海上使うれ上坐ハハ免と上使でもあひと京上座
 ままられ下るの内より紙子仕立の袖あり羽織とて近松
 門左衛門支出賓主の一礼ありて四方山の吐一の席は哥
 舞妓國のいとしといふ又翁の式舞まゝいふらんいふる子細
 よいやと三拜は向うけられてとぶくや翁が昔と語るも今
 さうふと扇を弄ひて淨瑠璃の不作風ななり元来ハを
 とる月卿の家よりえゝものゝふと幸ねね森氏
 とてその名もあゝれー身ありーが故めて録を擇し
 世とのれよりこのいふや々平安堂集林子とて元來の
 らどめの以京都とて万太夫が芝居のねえゆきとて
 その後浪をよめとてさ竹本筑後が座より近
 松門たると名も改まらぬとてやめて淨瑠璃の戯

作をまゐりて百余番就中國戲爺と振袖の始り
も音なきらん難り苦行苔の夜をやりし仙人
ありて近松が枕のりふいふい止るんくの
下ッ洪学碩才ありてあまの戯文をわすこと
智恵才一の文珠先生はる早も支離の菩薩の余と
うけ是をさぐくゆられうま仙都小伴ひて作者
の仙とてべきぞあつくうごことなりし来や来し
外記づゝてアウゝぎや空中より黒雲一じり
下ッ吉事あり山事ありあもせよ不審うら
と云ふ家もいふて立出〜享保九年のこと
あり〜その時七十有余歳今もかゝるゑば老人落伯
然る鴻の月うの俊寛い〜や〜見〜草も
も日本の地〜〜昔日本紀の混純赤く又唐土

の上古は似〜三皇ありぬ三枚櫛い〜威勢を
争ひ赫〜〜公が方便て万民大平と諷ひ和を
整ふ〜又三種の宝と称するあり才一は金の
銀杏才二銀の橋才三玉の酢醬草あり三種のさ〜物を
一守護せぬ〜かんと。三の國は〜人物心名と
号森妓とい。猿市森の三國を。三大將は預。平均の世
ありつ〜。翁が家をつゝ者か〜。さふ依てお〜たの〜
は仙術と傳受して長生不老の〜。お〜まで
い〜。つ〜。御代に〜。浄ろり。おの大
文る。栄〜。と〜。ひ〜。三件公と三
の切の物語を〜。抜く長〜。三件も〜
の〜の子細とい。引〜。江戸の子僧氣〜
小〜。見〜。二代目。近松大王〜。さ〜。

茅四回

あつち。又へ赤くくくく。大悪ききき。て。むき情深く。
悪暮りつ。親の前ともくく。婦人義知せ
これ。直は悪念を發して。宝ものばきく。その女のひら
くく。界き。幼當さる。な。その内も。赤
く。堅結ある。大勇士。眼下。赤き。是。次。
赤色。い。女。か。口。あ。く
と。男。方。も。く。は。國。の。定。て。さ。の。い。
ふ。も。か。と。金。の。大。盡。つ。て。男。て。男。
も。く。ひ。て。い。や。も。さ。い。お。擲。は。逢。悪。手。代
は。後。家。と。合。ふ。て。息。子。の。越。度。と。願。ひ。実。家。若。金。の
二。面。は。手。代。探。で。借。用。の。金。子。百。兩。に。却。る。貸。金。の。金。
失。と。い。ひ。け。ら。れ。女。房。の。身。代。金。は。若。殿。の。揚。代。は。さ。す。
姫。君。の。身。が。い。ふ。老。臣。も。く。娘。の。髪。を。結。ひ。時。

腹切と。母親より付りかゝる。救う様ようの古方こほうを引ひて必かならず迷まよ
の文句あり。其心を解くる。下島かしまといふも妙く大畧たいりやくに
揃そろ朝良あさら仕若しわか又限かぎべし。貨物かぶつものの勅使ちくし上使じやうしハ奥の一
間を出て化をあへり。揚屋あげやは催促さいそく高位かういのおへると
はく座ざして。推里おしりの二階一帯ふたかいいちたいカと中なかつも。或ハ月御雲づきみぐも
閣かくの列座へ置駕ちが馬ばを昇のぼ込こ行附馬ゆきつけうばと追入おひいれ。其馬の
足あしハ縛しばの足袋たびと破やぶて。ほろ驛えきうろとびえんと。上使じやうし者。
一人悪人あくじんとして。一人善人ぜんじんなり。園所の役人やくじんも又然しかなり。政務せいむは
執行武士ハ木馬うきうばづり。やが貴きの名のくとして。幼わらわさを
水責雪責みづせきゆきせきよするあれ。極惡ごくあくの盜賊とうぞくと責せふ刀の
鐺どうを以もつ白狀はくじやういろげと云いふあり。執しやく事じれと奴ハ直ただ白狀はくじやう
それとも心こころをけり。鉄てつの鎖くさりを一切いっけつて。仁屯にどんの下紐したひもとは
でらるる穴あなと多おほし。此このよくぬ束束たばたばとして。ぐんどうぐんどうが如ごとく

里の子どものふあふいと。面白くもあつた。わうくう。そ
わうくうのか太刀で腰をく。連の女とぶやうにけく。歩け
一。道のうもゆも。多し。身とあきうてと。はでん
も。二人、あつた。心中のゆきあ。只いふをぶく。も
し。人を續居るゆ。南とあつた。仏の五六べんも。通
つ。め。昔居る。て。が。さ。で居る。処へ。過堂。外
萩。稲村の蔭あ。より。侍。と。飛。て。出。内。へ
ゆ。と。や。を。の。持。を。る。者。ら。赤。き。影。の。取。又
号。と。あ。つ。た。と。世。話。と。も。或。と。人。の。首。を。取。
金の催促。も。比。目。六。つ。の。種。も。先。の。刻。を。お。過
す。可。い。悪。の。相。後。を。声。で。く。か。せ。も。他。人。は。笑。う。
と。と。声。の。さ。や。と。耳。の。さ。と。り。く。内。は。は。ま。
と。と。垣。根。の。蔭。の。ま。ま。は。子。を。笑。と。と。は。は。と。

乙一のろも合せ。春々早々——繪草帑を乃
 物賣より。かゝ本屋の封切ふうせきまで。さうさう
 待て。くあんと斗りて。そそ尾も揃ぬ早ぐら
 情物の諸君子うら。必ウ読んハウ——下ふし。さ
 しくみ歎討や。さうさうの物読ふと。ぬぬ物のうら
 ぐ。さうさう春の笑ぐらに。

めづる筆をとりがみ。

阿まあしと生うつし。

画工曲國の得判。ひふ

五部

子ヨシ

2

優優二階附錄卷下尾

後序

余^よ此^{こゝ}きて云^{いふ}領^{りやう}は換^{かへ}も戲^{あそび}場^ばと覺^{おぼ}えらる。花^{はな}とさ
れども江^{かう}利^り紀^きの足^{あし}切^き名^なふつたむ口^{くち}田^{でん}もあれ。
やう。事^{こと}れ芝^{しば}お好^{この}み。朝^{あさ}希^{まれ}の鼓^こをほれ。
あまの乃^{のみ}所^{ところ}安^{やす}に舞^ませ。水^{みづ}試^し合^{あひ}れ。疏^{そう}とうも。
江^{かう}試^し合^{あひ}の江^{かう}はあがき。中^{なか}美^みの暖^{ぬる}路^ろと甘^{かん}
デシボウじお先^{さき}より進^{すす}て。張^{はり}子^こ老^{ろう}者^{しゃ}と云^{いふ}少^す
シ名^なラぶめあま。密^{みつ}柑^{かん}の皮^{かわ}と頁^{へい}く可^{おそろしく}懼^{おそ}
い。線^{せん}の續^{つぎ}に徳^{とく}お持^{もち}んで衣^い類^{るい}損^あ亡^なひ。

くるるをりや 國事見たり 木をく
 走まやと 出が あは 花道より ちびぬ
 捺と 居る 油利ぬ 枕と 一重の 飯碗のお
 茶を 吞で 樂具と ちよあま 友人を 國事
 然る 事には 楽なる 遊んで 二サと 姑と 寄る
 想つる 彼ら 三階の 凸子 容色と 寄る
 とあふ 予い 切落の 凹に 改研と 一ヨ 細い
 目大まの 只定と 寄る 此と 寄る 寄る
 目サと 寄る 寄る 寄る 寄る 寄る 寄る

予も 所らう 何と 何と 何と 何と
 多し 思ふ 事と した 寄る 寄る 寄る
 寄る 寄る 寄る 寄る 寄る 寄る
 寄る 寄る 寄る 寄る 寄る 寄る

寛政

辛酉年

正月

喜羅哩橋

云雨

三馬
二十五年の曉子木

玄高
千倉董流書



東都畫人

歌川陽齋豐國



寛政十三辛酉年正月發行

芝敷寄屋橋御門通山下町

萬屋太次右衛門

東都書林

本材木町二丁目

春松軒

西宮新六藏梓

三戲場
大雜書

俳優節用集狂言

三馬作
全一冊

来ル成の初春



